

# すべての遺伝子組み換え作物の根絶を めざして、声を上げていきましょう

## ～遺伝子組み換え技術への警鐘～



「遺伝子組み換えルーレット」は、米国で起こっている遺伝子組み換え食品による健康被害について、米国で制作されたドキュメンタリー映画。この映画は、医学・医療関係者、政府の食品安全審査に関わる研究者、自閉症やアレルギーに苦しむ子どもの親たち、家畜の健康障害を扱った獣医など、多数の証言からその実態を浮かび上がらせている

「遺伝子組み換えルーレット  
—私たちの生命のガンブルー—映画会 &  
映画監督ジェフリー・M・スミス氏講演会

主催：グリーンコープ共同体・グリーンコープ生協ふくおか

ジェフリー・M・スミス氏  
(プロフィール)

IRT(責任ある技術者協会)創設者。遺伝子組み換え問題の専門家、消費者運動のリーダーとして国際的に活躍。日本語訳された著書に『偽りの種子-遺伝子組み換え食品をめぐるアメリカの嘘と謀略』(家の光協会2004年)がある

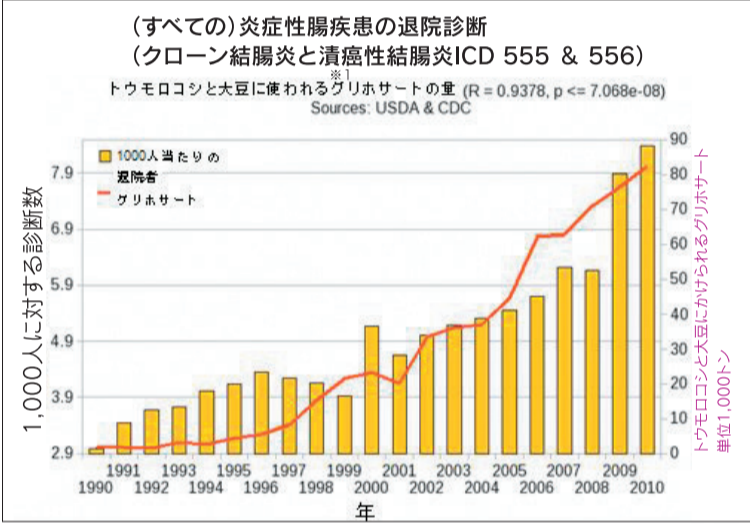


グリーンコープは、「安心・安全な食べものを育かす遺伝子組み換え作物(GMO)に警鐘を鳴らし、広く組合員内外に伝えていく」ことを提起したいと、2016年2月22日、遺伝子組み換え問題の専門家である、ジェフリー・M・スミス氏を迎え、映画会と講演会を開催しました。組合員や一般の方、合わせて約千人の参加があり、食の安心・安全に対する関心の高さがうかがえました。

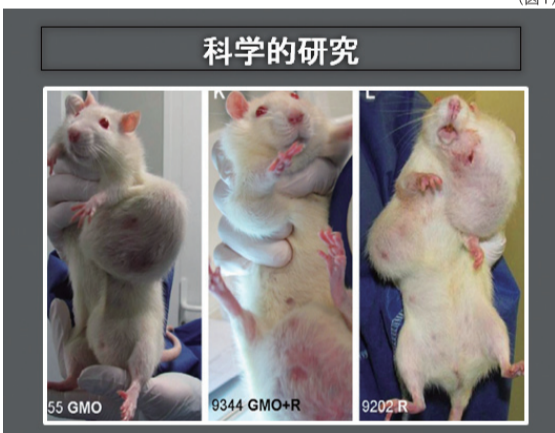
映画会の冒頭、天笠啓祐さんによる学習会を開催しました(2面掲載)。上映後、米国で実証・証言されたGMOの危険性についての講演がありました。

参加者は、GMOによる健康被害の実態を知り、その危険性に驚くするとともにGMO反対運動の論拠を共有することができました。また、「遺伝子組み換えでない(non-GMO)を選んで食べることができるグリーンコープの組合員でよかった」との感想も多く出されました。今後、各単協でも映画の上映会が予定されています。これを機にGMOの危険性を訴え、安心・安全な食べものをすすめていく運動をさらに広めていきます。

当日の講演と学習会の要旨を紹介します。



(表1)



科学的研究

GMトウモロコシや薄めたラウンドアップを与えたラットには、腫瘍の肥大が見られた。(フランスのカーン大学の実験による)

※1 除草剤耐性GM作物に使われる除草剤ラウンドアップの有効成分  
※2 殺虫性GM作物に含まれる殺虫毒素、Bt(バチルス・チューリンゲンシス)菌で作られた殺虫性タンパク質  
(表1) 図1は講演会資料より

**GMOを餌にすると病気が起こりやすい**  
2年間に亘る動物飼育実験の結果、GMダイズ

GM種子を開発・商用化したバイオ企業の Monsanto社は、短期間の動物実験で危険性は確認できない、長期間の動物実験は必要ないという見解だ。2012年のこの映画制作にあたって、医師、科学者等の専門家、畜産家、農家の協力を得て、研究や調査を重ね、GMOと疾病の増加に相関関係があるようだと分かってきた(表1参照)。

米国では1996年以降、GMOの栽培が拡大してきた。時期を同じくしてこの20年間、腸の炎症などの消化器疾患、アレルギー、糖尿病等の慢性疾患、自閉症、不妊、出生障害が急増。GMOの生産・拡大と、それに伴う除草剤ラウンドアップの製造・消費の増大との関係が疑われている。

**米国でのGMO拡大と疾病増加の相関**

講演会

遺伝子組み換え作物による健康被害が明らかに

ジェフリー・M・スミス氏

殺虫成分を持つGMOは、バクテリアから抽出したBt毒素が組み込まれており、その作物を食べた昆虫の消化器を破壊す

(裏面に続く)

# 共生の時代

みどりの地球を  
みどりのままで

2016 4月

発行：グリーンコープ共同体理事会  
編集：共生の時代・編集部  
〒812-8561  
福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号  
博多大博通ビルディング3階  
TEL 092 (481) 7923  
FAX 092 (481) 7876  
<http://www.greencoop.or.jp/>

## Contents

「遺伝子組み換えルーレット」1・2  
映画会&講演会

くまもと発  
100円基金助成団体報告会と  
ワーカーズアピール 3

東日本大震災五年後集会 4・5

グリーンコープ共同体組織委員会  
2015年度脱原発学習会  
脱原発で地元経済は  
破綻しない 6

グリーンコープの輪・和・環  
グリーンコープ生協みやざき  
小玉 直也さん 7

別紙にて、「放射能汚染と向きあう  
(放射能測定室より)」を掲載

**チェック!** 4月から「電力自由化」が始まるよ。自然エネルギーによる発電に取り組んでいる「グリーン・市民電力」も組合員に原発に頼らない電気を供給する準備をすすめているよ。詳しくは5月号で。





(二面から続く)
る。家畜と与えらるると腸に穴があき、腸壁が損傷する等を引き起こしていると考えられている。

米国では、non-GMO・オーガニック食品に変えると大きく改善

医師・栄養士、患者の母親から、GMOの食べ

ものをnon-GMO・オーガニック食品に変えることで、胃腸障害、生殖、気管、皮膚、精神的・情緒的な症状が改善したと報告があった。増加傾向だった体重が減り、肌の調子が良くなったという報告もあった。胃腸障害は、家畜と同じくBt毒素が要因と考えられている。Bt毒素は体内で腸内細菌を殺しながら増殖、胃や腸壁を損傷している可能性があるという報告もあった。

学校で手が付けられなく、呼吸困難になることもある6歳半の子どもは、食事をnon-GMO・オーガニック食品に変えて一週間後、学校での問題もなくなり、吸入器も必要なくなった。ところが子どもが自宅以外で食事を摂ったところ、1〜2日で元の症状が出て、短期間で反応することも分かった。子どもの食事を直すことで、家族の食事が変わり、体調に良い変化があらわれたという報告もあった。

消費者が声を上げなければならない

私は、健康な食を持つ力を信じている。米国の

医師たちから、何千もの個人が、多くの疾病がオーガニック食品やnon-GMOの食事で改善できたとの証言を得ている。

私は、人々がより健康な食で健康状態が良くなっているという実際の経験に基づく証言はとて力強いと思う。

米国では、映画上映後、多くの消費者がnon-GMOの食べものが必要だと考え、求めている。2013年にはGMOが自然食品産業から排除された。また、食品関係の大企業や企業がnon-GMOを使うと方針を変えてきている。

映画を見て、考えてほしいことが二つある。一つは自分の食を変えること。もう一つは、GMOの危険性を伝え、non-GMOの食が大切なことを伝える行動を起こし広げることだ。

日本には食に関心を持つグリーンコープという存在がある。友人や地域などでGMOの恐ろしさを広めてほしい。このままでは、自然界全体が、新しい遺伝子の脅威にさらされてしまう。一旦GMOに換えてしまったら、もとに戻すことはできない。

未来の子どもたちにこの地球を引き渡すために、今すぐ何か始めてほしい。私たちには、行動を起こすことができる十分な情熱があるはず。この映画をもっと多くの人に見てもらいたい。

学習会

私たちはGM食品を多く食べている?!

遺伝子組み換え問題基礎知識

GMOと農業の危険性

GMOは1996年に栽培が開始されて、今年で20年。主に米国、ブラジル、アルゼンチンで多く栽培され、栽培面積は1億8150万ha、日本の面積の5倍ほどに広がった(表1)。

主なGMOは、除草剤耐性を持つもの、殺虫性を持つもの、両方の性質を持つもの、3種。GMOやそれに散布される農薬には4つの大きな問題点がある。

①除草剤耐性GM作物に散布される除草剤ラウンドアップの成分グリホサートの人や動物への影響

2015年、世界保健機関(WHO)の専門家組織である国際がん研究機関(IARC)では、グリホサートは発がん物質2Aにランク付けされている。

②殺虫性GM作物に含まれる殺虫毒素の人や動物への影響

科学ジャーナリスト 天笠 啓祐さん

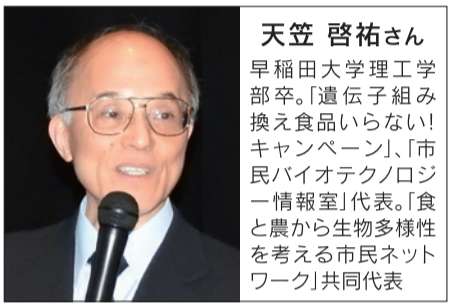
カナダのシャープルック大学医療センターの産婦人科の調査によると、①の除草剤やその代謝物、②の殺虫毒素が妊娠している女性の体内に蓄積し、その多くが胎児に移行していると指摘されている。

③遺伝子組み換え技術そのものの影響
GMOを作るプロセスが、DNAと植物の中に予測不可能な変化を作り出し、突然変異・遺伝子の停止などを引き起こす可能性が指摘。また、除草剤耐性GM作物に含まれる除草剤を分解する成分が、人や動物の体内で悪い働きをする可能性が指摘されている。

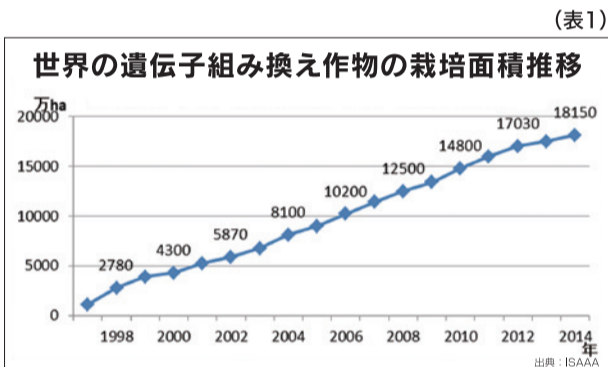
④遺伝子組み換えがうまくいったかどうか見分けるために入れられるマーカー遺伝子の影響

米国の環境医学会は、過去のGMに関する動物実験を分析した結果、免疫システムと生殖や出産、解毒臓器(肝臓や腎臓)に悪影響が出ていると指摘した。

フランスのカーン大学ではGMエサを食べさせるとラットの動物実験を、通常は90日のところを、平均寿命の2年間で行った。その結果、寿命の短縮が起き、しかも、雌への影響が大きいこと(大きな腫瘍の発生率が高)が分かった。雄は肝機能障害、腎臓の肥大など解毒臓器への影響が目立つた。



天笠 啓祐さん
早稲田大学理工学部卒。「遺伝子組み換え食品はいらない!」市民バイオテクノロジー情報室代表。「食と農から生物多様性を考える市民ネットワーク」共同代表



世界の遺伝子組み換え作物の栽培面積推移 (表1)

Table with 2 columns: Ingredient and GM origin. Lists items like plant oils, soy sauce, and additives, indicating their GM status.

GM由来の原材料と添加物使用の可能性 (表3)
植物性油脂 トウモロコシ・ダイズ・ナタネ・ワタなどGMOが原料である可能性が極めて高い
醤油 GMダイズ
たん白加水分解物 GMダイズのタンパク質の可能性が高い
果糖ぶどう糖液糖 GMTウモロコシから作られるコーンスターチが原料
加工デンプン GMTウモロコシから作られるコーンスターチが原料
調味料(アミノ酸) GM微生物を使って作るGM食品添加物
イノシン酸 GM微生物を使って作るGM食品添加物
グアニン酸 GM微生物を使って作るGM食品添加物
乳化剤 GMダイズのレシチンが原料である可能性がある
酸化防止剤(ビタミンE) GMダイズ
ビタミンB2 GM微生物を使って作るGM食品添加物

GM規制に動く世界の現状

世界中でGM食品の反対運動が広がっている。ヨーロッパではGM食品は流通していない。ドイツは流通していない。スイスは流通していない。フランスではGM食品の栽培を禁止。ロシア、アゼルバイジャンなどでもGM食品の流通を拒否している。中国は規制強化に向かっている。台湾ではGM表示の規制が厳密になり、学校給食での不使用が決められた。韓国は栽培禁止。米国ではGM表示を求める運動が拡がり、2016年7月からは、バーモント州でGM表示を義務付ける法律が施行される。

GMO反対を貫きます

グリーンコープ生協ふくおか理事長 大橋由美子さん
日本ではGM表示義務のない食品が多く、混入したものは5%までは表示義務がない上に「遺伝子組み換えでない」と表示できることに疑問を持っていきます。GM食品を避けようにも選べないのが現状です。グリーンコープはこれまで、これからはGMO反対を貫きます。一人ひとりが、GM問題を知ること、それを伝えること、選んで食べることに取り組み、この生命を守る運動をすすめていきたいと思います。

輸入が許可されているGM作物とその加工品 (表2)

Table with 3 columns: GM crop, GM processing products, and notes. Lists crops like soybeans, corn, and wheat, and their processed forms like oil, soy sauce, and snacks.